

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
ドイツ文学概論Ⅰ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化	2	森本 浩一	前期 金曜日 3 講時	
ドイツ文学概論Ⅱ	物語と物語経験	2	森本 浩一	後期 金曜日 3 講時	
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	前期 水曜日 2 講時	
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	後期 水曜日 2 講時	
ドイツ文学基礎講読Ⅰ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	前期 火曜日 1 講時	
ドイツ文学基礎講読Ⅱ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	後期 木曜日 5 講時	
ドイツ文学各論Ⅰ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(VIII)	2	佐藤 研一	前期 木曜日 4 講時	
ドイツ文学各論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作『フィロータス』	2	佐藤 研一	後期 木曜日 4 講時	
ドイツ文学各論Ⅲ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(9)	2	佐藤 雪野	前期 火曜日 2 講時	
ドイツ文学各論Ⅳ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(10)	2	佐藤 雪野	後期 火曜日 2 講時	
ドイツ語学各論	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	後期 金曜日 2 講時	
ドイツ語学各論	ゲオルク・ビューヒナーと近現代	2	竹内 拓史	通年集中 その他 連講	
ドイツ文学演習Ⅰ	フィクションの物語を批評する(1)	2	森本 浩一	前期 月曜日 3 講時	
ドイツ文学演習Ⅱ	フィクションの物語を批評する(2)	2	森本 浩一	後期 月曜日 3 講時	
ドイツ文学演習Ⅲ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	前期 金曜日 2 講時	
ドイツ文学演習Ⅳ	多読によるドイツ語の習得	2	菊池 克己	後期 火曜日 4 講時	
ドイツ語学演習Ⅰ	ドイツ語学演	2	ナロック ハイコ	前期 水曜日 3 講時	
ドイツ語学演習Ⅱ	ドイツ語学演習	2	ナロック ハイコ	後期 水曜日 5 講時	

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB35303 科目ナンバリング：LHM-LIT204J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパの文脈から見たドイツの歴史と文化

2. Course Title (授業題目)：History and culture of the German-speaking sphere in the European context

3. 授業の目的と概要：「ドイツ語圏」の歴史（社会・文化を含む）に関する基礎的知識の習得を目的として、重要なトピックを取り上げて概説する。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：With the aim to help students acquire a basic understanding of the history of the German-speaking sphere, this course deals with the main historical topics from the ancient time to the 20th century. It focuses the wider context of "Europe" and the specific features of German area.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史（社会・文化を含む）に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will widen his/her perspective to understand the characteristics of the German-speaking sphere in Europe.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡に常に注意しておくこと。

1. ユーラシア世界・古典古代
2. ゲルマン人とキリスト教(1)
3. キリスト教(2)
4. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立
5. 中世的秩序の形成
6. 神聖ローマ帝国の発展
7. 中世の秋
8. 宗教改革の時代(1)
9. 宗教改革の時代(2)
10. 近代への過渡期
11. プロイセン・オーストリアとフランス革命
12. ドイツ国民国家の命運
13. 世界戦争の時代
14. ヒトラーとホロコースト
15. ドイツ文化を振り返る

8. 成績評価方法：

おおむね、出席（30%）と期末レポート（70%）。

9. 教科書および参考書：

参考書としては、坂井栄八郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB45304 科目ナンバリング：LHM-LIT205J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語と物語経験

2. Course Title (授業題目)：Narrative and its experience

3. 授業の目的と概要：小説・映画・ドラマ・マンガ・ゲームなど「フィクションの物語」は、ますますそのジャンルを多様化させ、文化産業としての規模も拡大して、われわれの日常生活に浸透している。なぜ「現実」と関わらない「物語」をわれわれは好み、また必要とするのか。そもそも物語を享受するときわれわれは何をしているのか。この授業では、特に各ジャンルの本質的かつメディア依存的な構造・特性と、それがもたらす「物語経験」のあり様について考察することで、規範性にとらわれない自由な視点から「フィクションの物語」への理解を深めてゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Today "narrative as fiction" such as novel, movie, drama, manga, game, etc. are increasingly diversifying their types and genres, promoted by the innovation of media. And we feel now that they are indispensable to our life. Why does the fictional narrative, which is irrelevant to our reality, fascinate us so much, and what do we do in the first place, when we enjoy it? In this lecture we ask these questions from the theoretical viewpoint, especially focusing on the essential and media-dependent properties of each narrative type and the recipient's "narrative experience" effected through those properties.

5. 学習の到達目標：

フィクションの物語および物語経験についての一般的理解が深まり、個別の作品享受がより自由で豊かなものになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire a general understanding of narrative genres and narrative experiences, which will make their individual enjoyment more free and sensitive.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡に常に注意しておくこと。

1. 導入
2. 現実とフィクション(1)
3. 現実とフィクション(2)
4. 物語の基本性質(1) アリストテレスの詩学
5. 物語の基本性質(2)
6. 物語とメディア
7. 小説の物語経験(1)
8. 小説の物語経験(2)
9. 小説の物語経験(3)
10. マンガの物語経験(1)
11. マンガの物語経験(2)
12. 動画ジャンルの物語経験(1)
13. 動画ジャンルの物語経験(2)
14. 物語の寓意性と物語解釈
15. 受講者(学生)による自由討議と総括

8. 成績評価方法：

おおむね、出席(40%)と期末レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：これを機会に、自分がこれまで知らなかった、あるいは敬遠していた作品やジャンルにも接して「物語経験」の幅を広げ、そこで自分が何を「感じるか」を常に反省する習慣を身につけてほしい。日頃なじんだ作品を越えて、できるだけ多様な小説を読み、映画を見、マンガを読むことがこの授業における「時間外学習」として求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB53208 科目ナンバリング：LHM-LIT206J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学習の到達目標：
ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 人称代名詞
 - 3 指示代名詞
 - 4 不定代名詞
 - 5 関係代名詞 (1)
 - 6 関係代名詞 (2)
 - 7 冠詞 (1)
 - 8 冠詞 (2)
 - 9 冠詞類
 - 10 命令表現 (1)
 - 11 命令表現 (2)
 - 12 副詞 (1)
 - 13 副詞 (2)
 - 14 非人称の es (1)
 - 15 非人称の es (2)
8. 成績評価方法：
レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：
プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)はClassroomで指示する予定。

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB43203 科目ナンバリング：LHM-LIT207J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学習の到達目標：
ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 現在形 (1)
 - 3 現在形 (2)
 - 4 過去形 (1)
 - 5 過去形 (2)
 - 6 現在完了形 (1)
 - 7 現在完了形 (2)
 - 8 過去完了形
 - 9 未来形 (1)
 - 10 未来形 (2)
 - 11 未来完了形
 - 12 接続法 (1)
 - 13 接続法 (2)
 - 14 接続法 (3)
 - 15 接続法 (4)
8. 成績評価方法：
レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：
プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)はClassroomで指示する予定。

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LB32103 科目ナンバリング：LHM-LIT219J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目) : German Literature (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。

ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.

Encounter culture and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.

5. 学習の到達目標：

A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Acquire German language skills at the A2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Wie wars in den Ferien?

3. Wie wars in den Ferien?

4. Meine Pläne

5. Meine Pläne

6. Freundschaft

7. Freundschaft

8. Bilder und Töne

9. Bilder und Töne

10. Zusammenleben

11. Zusammenleben

12. Das gefällt mir

13. Das gefällt mir

14. Mehr über mich

15. Mehr über mich

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

9. 教科書および参考書：

Friederike Jin & Lutz Rohrmann. Prima Plus A2. Cornelsen/朝日出版

10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ文学基礎講読Ⅱ／ German Literature (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 木曜日 5講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LB44501 科目ナンバリング：LHM-LIT220J 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：German Literature (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.

Encounter culture and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.

5. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire German language skills at the A2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Fitness und Sport

3. Fitness und Sport

4. Unsere Feste

5. Unsere Feste

6. Austausch

7. Austausch

8. Berliner Luft

9. Berliner Luft

10. Welt und Umwelt

11. Welt und Umwelt

12. Reisen am Rhein

13. Reisen am Rhein

14. Ein Abschied

15. Ein Abschied

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

9. 教科書および参考書：

Friederike Jin & Lutz Rohrmann. Prima Plus A2. Cornelsen/朝日出版

10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 研一

コード：LB54402 科目ナンバリング：LHM-LIT306J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(VIII)
2. Course Title (授業題目)：Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (VIII)
3. 授業の目的と概要：「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチェ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わいつつ、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。なお、当喜劇読了後は、『ミンナ』同様、七年戦争の影響下で執筆された一幕もの悲劇『フィロータス』(1759)を読む予定。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Im Zusammenhang mit der „Aufklärung“, wo die Moderne langsam entstanden ist, lesen wir das Lustspiel „Minna von Barnhelm“ (1767) von Lessing unter diesem Aspekt gründlich durch.
5. 学習の到達目標：
文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング (1729-81) の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Wir versuchen die Originalität vom Lustspiel „Minna von Barnhelm“ aufzuzeigen, das nicht nur vom Siebenjährigen Krieg, sondern auch von verschiedenen literarischen Traditionen nachhaltig beeinflusst ist.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。
第1回：オリエンテーション
第2回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt
第3回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt
第4回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt
第5回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt
第6回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt
第7回：Fünfter Aufzug, Vierzehnter Auftritt
第8回：Fünfter Aufzug, Fünfzehnter Auftritt
第9回：当喜劇に関する討議・総括
第10回：Philotas. Erster Auftritt
第11回：Philotas. Erster Auftritt
第12回：Philotas. Zweiter Auftritt
第13回：Philotas. Zweiter Auftritt
第14回：Philotas. Zweiter Auftritt
第15回：Philotas. Zweiter Auftritt
8. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。
9. 教科書および参考書： テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。参考文献は以下の通り。
Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004./
柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。
10. 授業時間外学習：ギリシャ悲劇、ローマ喜劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。
11. 実務・実践的授業/Practical business ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐藤 研一

コード：LB64403 科目ナンバリング：LHM-LIT307J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作『フィロータス』
2. Course Title (授業題目)：Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Philotas
3. 授業の目的と概要：「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえ、レッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) 同様、七年戦争の影響下で執筆された一幕もの悲劇『フィロータス』(1759)を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。
十八世紀ドイツ戯曲は、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』や『エミーリア・ガロッティ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774) や喜劇『軍人たち』(1776) 等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『フィロータス』の台詞一言一句を味わいながら、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Im Zusammenhang mit der „Aufklärung“, wo die Moderne langsam entstanden ist, lesen wir das Trauerspiel „Philotas“ (1759) von Lessing unter diesem Aspekt gründlich durch.
5. 学習の到達目標：
文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング (1729-81) の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Wir versuchen die Originalität vom Trauerspiel „Philotas“ aufzuzeigen, das nicht nur vom Siebenjährigen Krieg, sondern auch von verschiedenen literarischen Traditionen nachhaltig beeinflusst ist.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。
第1回：オリエンテーション
第2回：Philotas. Dritter Auftritt
第3回：Philotas. Vierter Auftritt
第4回：Philotas. Vierter Auftritt
第5回：Philotas. Fünfter Auftritt
第6回：Philotas. Fünfter Auftritt
第7回：Philotas. Fünfter Auftritt
第8回：Philotas. Fünfter Auftritt
第9回：Philotas. Fünfter Auftritt
第10回：Philotas. Fünfter Auftritt
第11回：Philotas. Sechster Auftritt
第12回：Philotas. Siebenter Auftritt
第13回：Philotas. Siebenter Auftritt
第14回：Philotas. Achter Auftritt
第15回：Philotas. Achter Auftritt
8. 成績評価方法：
レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。
9. 教科書および参考書：
テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Philotas. In Ders.: Werke und Briefe, Bd. 4. Hrsg. von G. E. Grimm. Frankfurt: Deutscher Klassiker, 1997, S. 9-35.) はプリントで配布する。参考文献は以下の通り。Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004./柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。
10. 授業時間外学習：ギリシャ悲劇、ローマ喜劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB52207 科目ナンバリング：LHM-LIT308J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(9)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (9)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.Students will understand history and culture of German speaking area.

2.Students will develop skills to read German academic text.

3.Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

対面授業が不可の場合は、リアルタイムのオンライン授業を行う。

1. オリエンテーション

2. プラハの歴史

3. ボヘミアとドイツ人

4. プラハとユダヤ人

5. プラハのドイツ文学

6. 映画「この素晴らしき世界」1

7. 映画「この素晴らしき世界」2

8. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 1

9. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 2

10. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 3

11. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 4

12. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 5

13. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 6

14. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 7

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature (Special Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB62205 科目ナンバリング：LHM-LIT309J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(10)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (10)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.Students will understand history and culture of German speaking area.

2.Students will develop skills to read German academic text.

3.Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

対面授業が不可の場合は、リアルタイムのオンライン授業を行う。

1. オリエンテーション
2. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. Lenka Reinerová: Mandelduft 1
5. Lenka Reinerová: Mandelduft 2
6. Lenka Reinerová: Mandelduft 3
7. Lenka Reinerová: Mandelduft 4
8. Lenka Reinerová: Mandelduft 5
9. Lenka Reinerová: Mandelduft 6
10. Lenka Reinerová: Mandelduft 7
11. Lenka Reinerová: Mandelduft 8
12. Lenka Reinerová: Mandelduft 9
13. Lenka Reinerová: Mandelduft 10
14. Lenka Reinerová: Mandelduft 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the classroom. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB65205 科目ナンバリング：LHM-LIT311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目) : Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.

In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.

5. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1505-1507)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1508-1510)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1511-1513)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1514-1516)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1517-1520)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1521-1524)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1525-1528)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1529-1532)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1533-1536)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1537-1540)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1541-1544)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

12. その他：なし

授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：竹内 拓史

コード：LB98813 科目ナンバリング：LHM-LIT311J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ゲオルク・ビューヒナーと近現代
2. Course Title (授業題目)：Georg Büchner und die Moderne
3. 授業の目的と概要：19世紀の作家ゲオルク・ビューヒナーとその周辺について、その作品や思想を紹介しながら、それらが近現代の作品や思想にどのように影響を与えているかと考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Dieser Kurs stellt einen Schriftsteller im 19. Jahrhundert Georg Büchner und sein Umfeld vor und untersucht, wie sein Werk und seine Ideen neuere literarische Werke und Gedanken beeinflusst haben.
5. 学習の到達目標：
近代ヨーロッパの文学と思想の一例を確認し、近代文学とその思想が現代のそれとどのような関係にあるのかについて考察できるようにする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Das Ziel dieses Kurses ist es, ein Beispiel der modernen Literatur und ihrer Ideen zu verstehen und ihre Auswirkungen auf unsere Zeit zu betrachten.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ゲオルク・ビューヒナーとその作品について概観
 3. 遺稿を巡る諸問題
 4. 『ヴォイツェク』1
 5. 『ヴォイツェク』2
 6. 『レンツ』1
 7. 『レンツ』2
 8. ビューヒナーの自然科学研究
 9. ビューヒナー家の人々1－父エルンスト
 10. ビューヒナー家の人々2－妹レイーゼ
 11. ビューヒナーと現代1
 12. ビューヒナーと現代2
 13. 映像で見るビューヒナー作品1
 14. 映像で見るビューヒナー作品2
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加（リアクションペーパーの提出等）35%， 期末レポート 65%
9. 教科書および参考書：
 - ・『ゲオルク・ビューヒナー全集』（鳥影社）日本ゲオルク・ビューヒナー協会有志訳，2011年
 - ・『ヴォイツェク ダントンの死 レンツ』（岩波文庫）岩淵達治訳，2006年
 - ・『ゲオルク・ビューヒナー全集』（河出書房新社）手塚富雄他訳，1970年買う必要はありませんが、上記のどれかで作品を読んでおいてもらえるとより授業内容への理解が深まると思います。ちなみに一番価格が安いのは岩波文庫ですが、「レオンスとレーナ」が入っていません。他の二つには、文学作品以外のもの（手紙やドクター論文等）の訳も入っていますが、高いです。
10. 授業時間外学習：日本語訳で構いませんので、ゲオルク・ビューヒナーの作品を読んでおいてください。主要な作品は4つしかありません。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 12. その他：なし

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB51305 科目ナンバリング：LHM-LIT323J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィクションの物語を批評する(1)

2. Course Title (授業題目) : Practice in criticism of fictional narrative (1)

3. 授業の目的と概要：様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students read and watch the fictional narrative works of various media, so as to write their own critical texts and to discuss about each other's critiques. Then the following questions will be focused: what the essential elements of the narrative are, how the difference of medium has an effect on the narrative experience of the recipient, and so on.

5. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、批評を書く技倆が向上する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will become more sensitive to the relationship of medium and content, and will improve the ability to write a critical text.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡を常に注意しておくこと。

1. 導入
2. メディア比較(1)
3. メディア比較(2)
4. 自由課題批評(1)
5. 自由課題批評(2)
6. 自由課題批評(3)
7. 映画を批評する(1)
8. 映画を批評する(2)
9. マンガを批評する(1)
10. マンガを批評する(2)
11. 小説を批評する(1)
12. 小説を批評する(2)
13. 小説を批評する(3)
14. 長篇小説を批評する
15. まとめ

8. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加(80%) およびレポート(20%)

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：自らの批評文等の指定された提出物は、事前に準備し、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

12. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB61303 科目ナンバリング：LHM-LIT324J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィクションの物語を批評する(2)

2. Course Title (授業題目)：Practice in criticism of fictional narrative (2)

3. 授業の目的と概要：様々なタイプの物語作品を対象として、実際に批評的テキストを作り出す訓練を行う。作品解釈において、形式や内容のどのような点に着目し、どのような言葉で自らの解釈を表現するかを、討議の中で検討してゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to write the critical text. Through their own critical writing and discussion they will investigate by themselves, on which aspects of the form(medium) and the content they should focus and by which words the recipient's experience can be more appropriately described and expressed.

5. 学習の到達目標：

作品を批評する能力が向上する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will improve the ability to write a critical text.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡に常に注意しておくこと。

1. 導入

2. 批評演習(1)

3. 批評演習(2)

4. 批評演習(3)

5. 批評演習(4)

6. 批評演習(5)

7. 批評演習(6)

8. 批評演習(7)

9. 批評演習(8)

10. 批評演習(9)

11. 批評演習(10)

12. 批評演習(11)

13. 批評演習(12)

14. 批評演習(13)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表、各回の批評文の提出と討議への参加(70%) および最終的な批評テキストの完成(30%)

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：自らの発表に向けた調査・執筆のための時間外学習が必要である。また毎回他の参加者の発表への論評の提出も求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

12. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB55207 科目ナンバリング：LHM-LIT325J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.

In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebt. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.

5. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1473-1474)
- 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1475-1476)
- 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1477-1479)
- 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1480-1482)
- 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1483-1485)
- 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1486-1488)
- 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1489-1491)
- 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1492-1494)
- 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1495-1497)
- 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1498-1501)
- 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1502-1504)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：菊池 克己

コード：LB62403 科目ナンバリング：LHM-LIT326J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多読によるドイツ語の習得
2. Course Title (授業題目)：German acquisition based on extensive reading
3. 授業の目的と概要：この授業では外国語習得のアプローチとして「多読」を取り上げる。自分のレベルより下のやさしい本から始め、本の中身そのもの楽しむ「多読」を行う。従来の訳読方式の読み方では、読書を楽しむことよりも、文法の分析や訳文の捻出が自己目的化してしまいがち。そこに文学的な体験は生まれているのだろうか？ 訳読方式は時間がかかるのでインプット量も増えず、ドイツ語に慣れ親しんだという実感も持ちにくい。自分がわかるやさしい本をたくさん読む「多読」を通して、新しい外国語習得の可能性を探ってみる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with books to read by means of extensive reading. Students choose books for themselves and read at their own pace. The aim is to help students to gain proper reading experience which is likely to be spoiled in the text understanding through analyzing grammatically and translating into Japanese.
5. 学習の到達目標：
 - ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
 - ・ドイツ語での読書を習慣化する。
 - ・読みの流暢さを獲得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to
 - enjoy reading in German without translating into Japanese
 - acquire the habit of reading in German
 - improve reading fluency
7. 授業の内容・方法と進度予定：

自分の能力にあった本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。

 - 1 オリエンテーション：多読とは何か？
 - 2 多読実践 1
 - 3 多読実践 2
 - 4 多読実践 3
 - 5 多読実践 4
 - 6 多読実践 5
 - 7 多読実践 6
 - 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
 - 9 多読実践 7
 - 10 多読実践 8
 - 11 多読実践 9
 - 12 多読実践 10
 - 13 多読実践 11
 - 14 多読実践 12
 - 15 読書経験を振り返って
8. 成績評価方法：

平常点 [100%]
9. 教科書および参考書：

教室で指示
10. 授業時間外学習：隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 1 2. その他：なし

科目名：ドイツ語学演習 I / German Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LB53306 科目ナンバリング：LHM-LIT327J 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演

2. Course Title (授業題目)：German Linguistics (Seminar)

3. 授業の目的と概要：2 年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学習の到達目標：

B1~B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Gesundheit I - Beschwerden nennen
2. Gesundheit II - Witz erzählen
3. Gesundheit III - Bild beschreiben
4. Gesundheit IV - Text zusammenfassen
5. Gesundheit V - Gedicht
6. Gesundheit VI - Orthographie
7. Gesundheit VII - Lange und kurze Vokale
8. Gesundheit VIII - Passiv
9. Gesundheit IX - Relativsatz
10. Gesundheit X - Konjunktiv
11. Klima I - Wettererscheinungen benennen
12. Klima II - Geschichte zu Bildern erfinden
13. Klima III - Pro und Kontra Diskussion
14. Klima IV - literarischer Text
15. Klima V - Erlebnisbericht

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Stufen International 2

10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LB63503 科目ナンバリング：LHM-LIT328J 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習

2. Course Title (授業題目)：German Linguistics (Seminar)

3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学習の到達目標：

B1～B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1～B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Klima VI - Brief
2. Klima VII - Wortakzent und Satzaccent
3. Klima VIII - Präpositionen
4. Klima IX - Komparation
5. Klima X - Plusquamperfekt
6. Etikette I - Höflichkeitsregeln
7. Etikette II - Parabeln
8. Etikette III - Rollenspiel
9. Etikette IV - Ausdruck der Bewegungsrichtung
10. Etikette V - Hörverstehen Interview
11. Etikette VI - Gedicht
12. Etikette VII - Satzaccent und Rhythmus
13. Etikette VIII - Konjunktiv II
14. Etikette IX - Verben mit Präpositionen
15. Etikette X - Nominalisierungen

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Stufen International 2

10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。